

トッド研究サークル Cercle d'études toddiennes

トッド研究サークル発足を告げるコミュニケ(2016年8月29日)

去る6月4日、トッド研究サークルが発足した。エマニュエル・トッドによって練り上げられた業績とモデルの批判・深化・検討・普及促進を目的とする、1901年の法律に拠る協会である。

同協会は、エマニュエル・トッドの学問的業績の多産性を認める研究者を糾合することを使命とするが、さらに、トッドの著作に刺激を受け、その今後の延長をたどることに興味を抱く、読者・傾倒者を糾合することを使命とする。

トッド研究サークルは、エマニュエル・トッドの研究業績に対する、大学人・知識人・ジャーナリスト・一般読者層の誤解が、彼の分析についての数多の無理解や悪しき解釈の原因となっているとの確認から出発する。

『第三惑星』(1983)、『世界の幼少期』(1984)、『ヨーロッパの創建』〔『新ヨーロッパ大全』〕(1990)、『家族システムの起源』(2011)

は、伝統的家族構造とその変遷・進化が人間諸社会の時間・空間内での変遷・進化の多様性を説明する、との仮説を提示していることを想起しよう。これらの研究についての知識がなければ、『経済幻想』や『フランスの謎』〔『不均衡という病』〕や『シャルリとは誰か?』といった試論は、根拠のない排斥の対象となりうるのである。

エマニュエル・トッドの業績は、歴史学、地理学、社会学、政治学といった学問分野にも貢献しているが、それはしばしば無視・看過される。それを強調しようとするのもまたトッド研究サークルの目標である。

トッド研究サークルは、出版物、研究会を通して、あるいは公開講演の際に、エマニュエル・トッドの研究の成果を、最大限の人々に知らしめ、それを議論し、延長し、さらに豊かにするとの目標を追求するであろう。

われわれのインターネット・サイト etudestoddiennes.fr をご覧いただきたい。

contact : cercle@etudestoddiennes.fr